薬剤部だより１０

ある雑誌に、ホノルルマラソンの出走前にボランティアが餅のようなものを配っていて、それを食べている写真が載っていましたが、興味があってよく見ると、ランニング中に皮膚が擦れないように塗布するためのワセリンだったと言う笑えるような話がありました。

ワセリンは医療従事者のみならず一般の人にも知れ渡っている名称だと思いますが、本来は Chesebrough 社の登録名でした。しかし、あまりにも一般的になりすぎたことから、日本薬局方の名称がアセチルサリチル酸→アスピリンに変更されたように、日本薬局方にはワセリンの名称で収載された経緯があります。

ここで質問ですが、ワセリンは何から出来ていると思いますか？　　答えは石油です。石油を精製して作られるので、単一成分ではなくパラフィンなどの炭化水素類の混合物になります。原料が石油のためもっぱら輸入に頼っていますが、海外では原料の石油や精製の度合いによるグレード分けがされている一方、日本では「黄色ワセリン」と黄色ワセリンを脱色した「白色ワセリン」に分類されています。一般薬としても薬局で販売されていますが、アレルギーがある方は薬剤師に相談して純度が高い製品を選んだ方が良いと思います。

ワセリンは中性であるため刺激性はほとんど無く、寒暖による粘調度もあまり変わらず、疎水性であり皮膚への透過性が少なく、粘着度が強いのが特徴です。そのため皮膚保護剤として単独でも使用されますが、商品名が「●●●●軟膏」となっている薬の多くはワセリンを基剤としており、その中に主薬が混ざっています。

２０年以上前になりますが、ストーマからの浸出液が多く潰瘍ができた患者さんに対して、何か良い軟膏がないかとの相談を受けました。薬剤部で検討・実験を重ねた結果、水分を吸収し膨潤してゲル状になるカルメロースナトリウムとワセリンを一定の比率で混合することにより、皮膚への粘着性を高めたＣＭＣワセリン軟膏を院内製剤として考案しました。実際に使用したところ非常に良い効果が得られたことから、ＣＭＣワセリン軟膏は口コミで院内に広がり、現在では、１００ｇ×６００個／年以上処方されています。